



STOP! 介護崩壊 介護ウェブ推進ニュース

—介護ウェブの“Big Wave”をおこそう!—

事例をまとめ高齢者・利用者の実態、困難をマスコミに告発していこう!

日本経済新聞に、「介護1000事例」の取り組みが紹介! (全日本民医連)

多くの報道機関から個別取材が相次ぐ —日本経済新聞で報道される—

11月10日(月)に行った『介護1000事例』の最終まとめの記者会見以降、多くの報道機関から個別取材が相次いでいます。この間、「朝日新聞」「日本経済新聞」「東京新聞」「中日新聞」「共同通信」「連合通信」が全日本民医連を訪れ、日本経済新聞(2008年11月17日・朝刊)で取り上げられました。記者の方々は、介護問題に対する関心が高く、「介護1000事例」の中から取材先の紹介依頼も相次いでいます。

11月6日には、和歌山民医連が記者会見を行いました(推進ニュース No.52 参照)。各県連・法人ごとに集約した事例をまとめ、高齢者・利用者の実態を知らせる取り組みを行っていきましょう。



高齢者虐待生む 介護家族の孤立

在宅介護を受ける高齢者への虐待に悩む者が少なくない。背景にあるのは介護する者の孤立。孤立・厚生労働省も今年から11月11日を「介護の日」に制定。地域が一体となって解決を目指す先駆け取り組みが始まっている。ただ、行政が「多額の回し金」で起る出費に介入するのには限界があるという。相談できず袋小路

「養父を殺してしまいました。特定非営利活動法人(NPO)法人「日本高齢虐待防止センター」(東京都)に寄せられた東京都内に住む女性からの相談。応じた松丸真知・事務局長は「虐待する側も苦しいまで追い詰められている」と話す。一人だけで介護に当たり、周囲に相談できる人もいないケースで虐待が多いという。女性は夫と、夫の父と2年前から同居。夫の留守中、認知症がある養父の世話をしている。その日は養父をトイレでサッパに送り届けて外出する予定だった。部屋は狭く、公的介護サービスの申し込みも高齢虐待の被害者への対応は限られている。全日本民医連(民医連)が行った高齢者虐待の現状調査からは、多くの高齢者介護に当たる家族が「介護サービス 利用制限などに批判も」を訴えている。民医連は「虐待防止に必要十分なサービスを提供する」として、地域ごとに「介護1000事例」をまとめた。事例は、虐待防止に必要十分なサービスを提供する。事例は、虐待防止に必要十分なサービスを提供する。

街かど

をきっかけに、かつては真珠業者が数多く入居していた同施設を提案、約二十平方メートルの一角を借りて入居。施設は無料。古道具を活用してアロマや香燭の歴史などを紹介するほか、コンサートやダンスやキョウモリもある。開設から五ヶ月、観光客も立ち寄るようになった。古い建物や道具を持つ歴史の重みや心算の心地(など)「目に見えない価値の大切さを、様々なイベントを通じて伝えていきたい」と話している。

真珠ミュージアム 養殖

変わってきたと初見の表情で話す。活動の舞台は、児童数の減少で四年前に廃校になった青森県八戸市。九月、同施設は「農業体験」を開催。本格的な体験で子供たちの顔が生き生きとしている。地元を離れた卒業生が帰省にあわせて参加するクラスも出始めたいという。

「農業

二〇一〇年度に東北新幹線が開業するまで延滞される。東京から経理的三時間前て結ばれる。平手を巻いた田中さんは「周囲の農家の協力を得て、泊まりがけの農業体験もできる場所にした」と夢を語る。

行政、保護対策探る



「あんなに助けを求めたのに、自治体などが対応しなかった」と訴える女性。松丸さんは問題に直面した二〇〇七年度の虐待被害者数は約一万三千人、前年度は五・六割増、介護者による殺人や心中でなくなった人は十七人に上った。松丸さんは「高齢者の虐待問題は、自治体だけでは対応できない」と訴えている。日本高齢虐待防止センターは「虐待防止に必要十分なサービスを提供する」として、地域ごとに「介護1000事例」をまとめた。



11月11日「介護の日」宣伝行動に28名が参加（民医連15名）（神奈川）

日頃の介護情景を思い出し目頭に光るものを浮かべながらの署名

10 団体 28 名が昼時の横浜西口で、1 時間「介護の日」宣伝行動をおこないました。短時間でしたが 10 人が「ヘルパーの立場」「事業主」「ケアマネジャー」「利用者」「労働組合」のそれぞれの立場で「利用料、保険料、消費税をあげないで介護改善を求める」訴えを行いました。

久々に 500 枚を超える「介護ビラ」と「介護のつどい案内ビラ」を配布する事ができました。「介護改善ビラ」が地域で大好評です。まだ机の隅に積んである事業所は即利用者さんや同業者に届けましょう。また、神奈川県社会福祉協議会と横浜市の介護の日イベント会場でも「介護のつどい」案内ビラ配布しました。

初老の奥さんが「98 歳の親の介護をしているが、一人では介護がしきれなくなり 3 年前よりヘルパーさんの派遣をお願いしている。献身的なヘルパーさんの活動には感謝しています。冷遇されているヘルパーさんの処遇がすこしでも良くなるように」と、署名をして下さいました。日頃の介護情景を思い出したのか目頭に光るものを浮かべながらの署名でした。ガバンを持つ県連事務局 S さんもついもらい泣き。（神奈川民医連 介護ウェブ推進ニュース No.09 2008.11.11 より）



今、介護崩壊の危機！ 介護保険制度を考えるつどい

近年は介護保険の負担しが行なわれ、制度が崩壊してきて、この負担額は 1.4 割に引き上げられ、一方、介護報酬は 4.7% 引き下げられました。その結果、介護サービスが提供できず、介護で働く人たちは生活に困窮し、介護現場で、違法残業、労働者が抱えています。このままでは介護崩壊です。安心して介護報酬への値を上げてみませんか。皆様のご参加お待ちしております。

日時 12月12日(金) 午前10時～正午
会場 水産会館5階 大会議室(内丸)

- 1 基調講演
介護制度の問題と改善点…… 吉田 均 氏 (岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会会長)
- 2 話題からの報告
 - ◎働く者からの提言 藤原 優子 さん (ケア・ワーク・アゲイブ)
 - ◎在宅利用者は今…… 渡辺真知代 さん (日本介護福祉生活協同組合)
 - ◎事業者は言いたい…… 小野寺 忠 氏 (コープ介護福祉センター あい)
 - ◎利用者、家族から 嶋崎 和子 さん
 - ◎介護事業計画は…… 盛岡市介護高齢福祉課 (9名)

<介護保険制度を考えるつどい実行委員会>

岩手県社会福祉協議会、岩手県介護者団体連絡協議会、岩手県生活協同組合連合会、いわて市協同組合連合会、岩手県高齢者福祉協議会、岩手県民生涯学習協議会、岩手県労働組合連合会、岩手県介護福祉センター協議会、盛岡市介護高齢福祉課

事務局：盛岡市介護高齢福祉課 電話 030-62283

今、介護崩壊の危機！介護保険制度を考えるつどい（岩手）

岩手民医連では、2008 年 12 月 12 日（金）10:00～12:00 に、水産会館 5 階大会議室で、他団体と共同した「つどい」を開催します。

吉田均氏（岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会会長）の基調講演「介護制度の問題点と改善点……」、現場からの報告「働く者からの提言」（熊谷信子氏・グループホームさくらの家）、「在宅利用者は今」（遊佐美和子氏・岩手県高齢者福祉生活協同組合）、「事業者は言いたい」（小野寺忠氏・コープ介護福祉センターあい）、「利用者、家族から」（嶋崎和子氏）、「介護事業計画は」（盛岡市介護高齢福祉課）等の企画が行われます。

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp